藻類採集地案内

吉崎　誠：千葉県大原町丹ケ浦海岸 Makoto YOSHIZAKI: Tangaura Beach, Ohara, Chiba Pref.

日本一長い砂浜として知られる九十九里浜の南の端は太東岬で終る。太東崎よりさらに約6km, 長い砂浜を南下すると大原漁港がある。千葉県夷隅郡大原町は上総大原の名で日本海藻誌にもしばしば登場する。山田幸男博士もかつてたびたびこの地を訪れ，ここで珍稀な海藻を得たことを本誌第6巻第1号（1958）で紹介されている。ヤツデガタトサカモドキ *Callophyllis palmata* YAMADA, ヤレウスバノリ *Acrosorium flabellatum* YAMADA, ハスジギヌ *Polyneura japonica* (YAMADA) MIKAMI, オオノアナメ *Agarum oharaense* YAMADA などは上総大原を type locality として記載された種類である。他にカエルデグサ，ホシガタイバラ，ハリイギスなども採集された記録がある。

大原漁港の南側にある小高い八幡岬に登ると東に太平洋，北側足下に大原漁港を見下し，はるかに太東岬を望む。南側は岬のつけ根近くまで入り込んだ入江があり，その向うは太平洋の荒波に侵蝕されて急激に海に落ち込んだ断崖が続いている。岬の頂き近くから岬の先端に下る急な細道がある。岬の下にはほんのすこしの平らな磯があり，そこで磯採集が出来るが，時折思わぬ大波がおしよせることがあるので注意を要する。大原での採集は磯採集よりも，八幡岬の南側にある丹ケ浦と呼ばれる幅約 80m 程の砂浜の海藻打ちあげに大きな興味がある。丹ケ浦は2月頃より6月頃にかけての毎大潮の干潮時にはよくたくさんの海藻が打ちあげられる。打ちあげられる海藻の大半は，かなりの

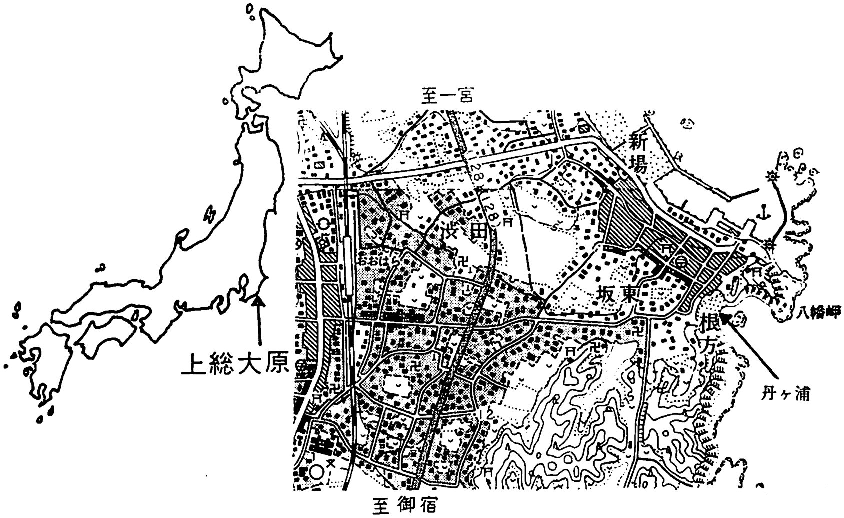

図1　千葉県大原海岸（右図は 1/25000）

深所に生育すると思われるものである。岡村博士（1934）は太東岬より南白亀（現在の長生郡白子町牛込）の沖合水深14～30 mのところでドレッジを行い，キヌダルスをはじめ22種の海藻を報告したが，筆者はその全種類をこの地の打ちあげ採集で得ている。これらは大原町の沖合にかなりの広さで発達した岩盤上に生育する海藻と推測される。

さて，この付近の海岸は近年侵蝕が進み，そのため1973年より侵蝕防止の目的で丹ケ浦の左端より八幡岬の先端部に向って約250 m，テトラポットの防波堤が築かれるにいたった。この工事が進むにつれ，丹ケ浦前の海流状態が変化し，これまでは干潮の折々丹ケ浦の砂浜に小高くなる程に打ちあげられていた海藻が小潮・中潮の干潮時には直接浜に打ちあげられず，水際に漂うようになることが多くなったことはいささか残念である。そのような時には胴付長グツをはき，レーキあるいは浜に打ちあげられた竿などをもってこの漂う海藻をかき集め，陸にあげ，それらをより分けるという方法をとると便利である。

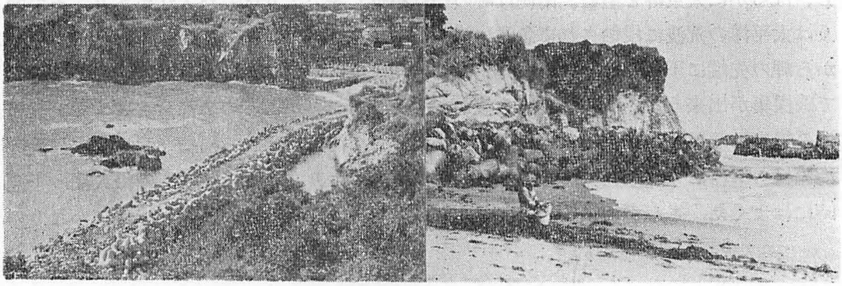

図2　千葉県大原町丹ヶ浦海岸

採集することのできた主な種類　緑藻類：ヤブレグサ，オオシオグサ，カタシオグサ，フジノハヅタ，フサイワヅタなど。褐藻類：サナダグサ，フクリンアミジ，ヤハズグサ，イチメガサ，タバコグサ，オオノアナメ，ヒロメ，アオワカメ，オオバノコギリモクなど。紅藻類：フサノリ，ニセフサノリ，ヒラガラガラ，タマイタダキ，マクサ，コヒラ，ヒラクサ，ユイキリ，ミチガエソウ，ナミノハナ，エツキイワノカワ，キョウノヒモ，ツルツル，ヒラキントキ，ナガキントキ，オオバキントキ，ヒロハノカクレイト，ヒロハノトサカモドキ，ヤツデガタトサカモドキ，ホソバノトサカモドキ，クロトサカモドキ，ベニスナゴ，サイダイバラノリ，タチイバラノリ，ホシガタイバラ，キジノオ，アツバノリ，オオバツノマタ，コトジツノマタ，フクロツナギ，キヌダルス，ホソダルス，マサゴシバリ，ヒラワツナギソウ，ハネクスダマ，キヌイトグサ，フタツガサネ，ヨツガサネ，カザシグサ，キヌイトカザシグサ，ベニヒバ，ナガウブゲグサ，ハリイギス，ハネイギス，フトイギス，サエダ，チリモミジ，ハブタエノリ，タチウスベニ，ハスジギヌ，ヤレウスバノリ，カギウスバノリ，スジウスバノリ，カクレスジ，イソハギ，シ

マダジア，ベンテンモ，ユナ，ハネソゾ，ハネグサ，ケハネグサ，コザネモ，ホソコザネモ，イソムラサキ，ヒヨクソウなど。

ここでの打ちあげ海藻は種類数の上でもまた量の上でも約80％以上は紅藻類で占められる。ここには美しいもの，あるいはいわゆる珍品稀品と称される種類も実に多い。筆者はここでフジノハヅタ，イチメガサ，オオノアナメ，キヌダルス，カエルデグサなどをしばしば採集した。またヤツデガタトサカモドキ，ヤレウスバノリ，ハスジギヌなどは，2～7月には極く普通に採集できるといってよい。

交通 外房線で東京駅より大原まで特急で1時間半，快速で2時間である。駅前に大原町観光案内図がある。線路沿いに隣駅浪花方向に約100m進み，線路を直角に横切ってどこまでも進むと大原漁港に至る。港の手前約200mのところの左側に郵便ポストがあり，右手に海の見えるところがある。そこが丹ケ浦である。丹ケ浦まで大原駅より徒歩で約20分，タクシーでは約5分である。車では国道128号線を南下し，大原漁港入口で左折するとよい。東京地方からは手頃な日帰りコースといえる。

□ W. D. P. Stewart ed.: **Algal Physiology and Biochemistry.** i–xi+989 pp., Botanical Monographs, Vol. 10, Blackwell Scientific Publications, London. 1974. £15.50（邦貨で購入すると約13,000円）

本書は同出版社の植物学モノグラフ10巻として出版されたもので，先きにでた "Physiology and Biochemistry of Algae" (R. A. Lewin 編，Academic Press 社，1962）の続編ともみなすべきものであり，その題目で明かのように，藻類全般の生理生化学の各専門別総説集である。後者が55章3付章（939頁）から成るのに反して，前者は32章1付章（989頁）として，章の数が減らされているだけに，かなり後者には見られない厚い内容の章もあり，全体的には生化学的内容が多くなっている。やはり最近になって，藻類学の分野にも近代生物学の進展方向が浸潤して来たことが窺われる。内容を大別すると，細胞壁関係や貯蔵性多糖を包含した炭水化物，ステロイドを含めた脂質，タンパク代謝に関連付けた核酸生化学，色素，明暗両反応を含めた光合成，明暗両呼吸，窒素およびリン酸，珪酸，石灰などの無機塩代謝，ビタミンやホルモンの影響も検討したいわゆる生長生理学，増殖，運動，同調培養などとなる。付章として，編者 Stewart の分類学所見がある。

このように，本書の内容は多彩であり，それだけに "藻類に興味をもつあらゆる学徒のための良書である" という推薦の言葉を惜しまない。事実，文献なども一般的にみてかなり詳しく引用されており，日本語のこの種の本の出版を望んでいた筆者にとっては，将にしてやられた感さえある。

（西 沢 一 俊）